

令和4年度

第1回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録  
(令和4年度 第1回)

- 1 日 付 令和4年7月16日(土)
- 2 場 所 食の創造館 2階 会議室
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康  
教育委員 平井 照江 教育委員 酒井 道子  
教育委員 濱田 望 教育委員 武井 哲也
- 4 事務局 理事(教育担当) 小宮 洋子 教育部長 中込 明宏  
教育部次長 江下 裕隆 教育部専任参事 萩原 明美  
教育部参事兼教育総務課長 西海 幸弘 教育部参事兼就学支援課長兼指導主事 山田 圭  
就学支援課学校給食担当課長 山崎 淳 教育部参事兼教育支援課長兼指導主事 坂野 千幸  
学び支援課長 山田 敦司
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項 (1) 教育大綱について  
(2) 感染症対策(マスク)について  
(3) 給食について
- 7 発 表 英語教育(ALT)について(社家小学校児童発表)
- 8 閉会時刻 午前11時50分

○専任参事 おはようございます。ただいまより令和4年度第1回海老名市総合教育会議を開会いたします。

本日司会を務めさせていただきます教育委員会専任参事の萩原と申します。どうぞよろしく願いいたします。

進行につきましては、お手元に配付の次第で進めさせていただきます。

本日の会議は、協議事項が3件、その後、休憩を挟みまして発表となります。また、全体を通して海老名市ユーチューブチャンネルにてライブ配信をいたしております。何とぞご了承お願いいたします。

それでは、初めに市長と教育長からご挨拶を申し上げます。

内野市長、お願いいたします。

○内野市長 おはようございます。総合教育会議は平成27年度からスタートしておりますが、8年目を迎えております。各市の状況を聞くと、年1回とかが多くありまして、これだけ多くやっているのは海老名市ぐらいだなと思っています。それだけ教育委員さんと私との関係で意思疎通ができるという場だと私は思っていますので、そういった部分ではスムーズな教育行政が成り立っていくのだろうと思っています。

今回、来年度がちょうど教育大綱の見直しで、新しくなりますので、令和4年度に教育委員の皆さんと相談しながら、来年度から始まる教育大綱をつくってまいりたいと思っています。あるいは、今日議題になっております給食についても来年の9月から中学校の給食が始まりますので、そういった面の議論もさせていただいて、子どもたちにとって、よりよい給食を提供できればと思います。

私どもの給食につきましては、数年前から公会計になっております。公会計というのは、どういうことかということ、給食費を市役所に納めていただいて、足りないところは足していく。あるいは徴収も市がやるという形で学校の負担はなくなっておりますが、そういった面で、できるだけ給食費を見えるようにしていこうということで、そういった形になっております。しかしながら、1つだけ、公会計にしてから滞納の部分が多くなりまして、やはり学校で徴収をすると集まるのですが、公会計になると税金のように納めなくていいのではないかとこの部分があって、それが1つの大きな問題だと思っています。そういった部分では、市としても税金の滞納とかいろいろありますから、そういった部分と一緒に一生懸命滞納がないような形を取り組んでいっておりますので、その辺につきましても、教育委員さんと今後、議論もさせていただきたいと思っています。本日はよろしく願い申し上げます。

○専任参事 ありがとうございます。

続きまして、伊藤教育長、お願いいたします。

○伊藤教育長 本日は雨の中、お集まりいただきありがとうございます。冒頭、本日、朝日新聞等で公表されていましたが、個人情報が含まれた数人分の書類が紛失しているような状況で、鋭意探してはいるのですが、手続を進める以上、保護者の方に16名分、再提出をお願いしなければいけない事案がありまして、それを公表させていただきました。そういう中で、一昨日分かったのですが、昨日中に16名全ての方にご案内を差し上げまして、再提出について説明しておわびしてご了承いただいたということでもあります。今後、教育委員会として、このようなことが二度とないように対応を進めてまいります。また、市民の方々、教育委員会の事務ですが、海老名市行政の信頼を損ねるような事案だったことについては、心からおわび申し上げます。

総合教育会議についてですが、食の創造館でやりたいということで、こういう部屋があって、ここは市民の方にも貸出しできる部屋で、後ろに調理の施設がありますので、地域の方々の料理とか何かがあったら、ここでいろいろな会合をしたり、料理教室も開いていただくありがたいかなと思っていますところでございます。

学校は、この3連休が終わると、2日で第1学期が終了します。新型コロナの状況ですが、水曜日から10名ずつ増えてきている。金曜日は89名と90名近い、6月頃ですと初めが20名から30名でしたので、子どもたちの新型コロナの陽性者で休んでいるのが金曜日は89名ということでございます。第1学期、中学校の修学旅行は全て行けました。小学校の様々な行事も全て行うことができました。そういう中で、あと何とか2日間、来週を過ごして、夏休みを過ぎて、私自身は第2学期の始まりを、実はとても心配しているのですが、コロナ禍で第2学期も子どもたちにとっては学習そのもの以上に様々な楽しみや行事等もありますので、それが保障されるような対応を進めてまいりたいと思っています。

今日はマスクのことについて話すのですが、今、陽性者が増えている状況で、この提案がちょっとずれちゃったなと思っていますところでございます。

あと、社家小学校の子どもたちが、後半、英語教育の成果を披露してくださるということで、とても楽しみにしています。海老名市は英語の取組は、文部科学省が進めるものを前倒しにして進めてまいりました。私の中には、何で英語をやるかという、実を言うと、ちょっと観点が違うのですが、子どもたちにとってはこの後の世界においてグローバルの中で活躍できるとあるのですが、私の根底はいろいろな国を旅してほしいという気持ちがあって、そのために英語を知っていたらいろいろな国に行けるだろうな。いろいろな国に行けて何がいいかという、私自身は人権教育だと思っています、私たちが日本にいて、日本人し

か住んでいないように思うのですが、いろいろな国のいろいろな姿を見たら、世界中にいろいろな人たちがいて、そういう中で世界が成り立っているということを実感する。そのためには英語で自由に人とコミュニケーションを取れる力をつけてほしいというのが根底にあって、英語教育には力を入れているところでございますので、今日は外国人英語講師の方も来ていただけたということですので、それを楽しみにしているところでございます。

それでは、半日ですが、よろしく申し上げます。

○専任参事 ありがとうございます。

それでは、早速協議事項に入りたいと思います。これからの進行につきましては、内野市長に議長をお願いしたいと思います。内野市長、お願いいたします。

○内野市長 それでは、協議事項(1)教育大綱についてを議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○教育部次長 それでは、教育大綱についてご説明させていただきます。

私は教育部の次長をしております江下といいます。どうぞよろしく申し上げます。着座にて失礼いたします。

お手元に資料を配付してございますが、同じものを入り口側の白い壁に投影させていただいております。そちらも御覧いただければと思います。では、始めさせていただきます。

本日説明させていただく内容は、1、海老名市教育大綱とは、2、現行の教育大綱の策定経過、3、策定に向けたスケジュールとしております。

まず初めに、「海老名市教育大綱とは」についてご説明いたします。教育大綱とは、海老名市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策についての根本となる方針、これを大綱と言っておりますが、そして平成27年4月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正によりまして、地方公共団体の長であります海老名市長が定め、その策定に当たっては総合教育会議で協議することとなりました。

現在の海老名市教育大綱は、計画期間が平成31年4月から令和5年3月までの4年間としておりまして、今年度で計画期間が終了することから、本日の総合教育会議で次期教育大綱について議題とさせていただいたところでございます。

なお、この計画期間につきましては、法律上の定めはございませんが、教育大綱を定める市長の任期が4年であること、また、上位計画となります国の教育振興基本計画が5年ということから、他の自治体では計画期間を4年ないし5年としているところが見受けられます。

現在の海老名市教育大綱の構成と概要をご説明いたします。構成は、大きく4つ、「目標」、

「基本的な考え方」、「取り組み」、「教育施策の3つの柱」となっておりまして、目標は、「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名とし、基本的な考え方は、「ひびきあう教育」の理念のもと、子どもたちの家庭・学校・地域のしあわせをめざすこととし、取り組みは、「子どもたちの今と将来のしあわせのための教育」に取り組むこと、「子どもと大人がともに成長する社会」に取り組むこと、「家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくり」に取り組むことの3点としております。

教育施策の3つの柱につきましては3点ございまして、1、「えびなっ子しあわせプラン」の推進、2、子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実、3、新たな学校施設への取組と子育て環境の充実、この3つを大きな柱としまして、資料に記載しておりますが、それぞれの施策に5つの実施事業を位置づけております。そして、この教育施策を進めるためには、家庭・学校・地域・行政の力を結集して行うことが必要であることとしております。

なお、次期総合計画の策定に当たりましては、市で定めております行政運営の最上位計画となります「えびな未来創造プラン2020」に即したものとすることとなります。

続きまして、当初の教育大綱から現在の大綱に移行した際の現行の教育大綱の策定過程をご説明いたします。

最初に、経過になります。現在の大綱策定は、平成30年9月の総合教育会議で見直しの方向性の意見聴取から始まり、前大綱の評価を経て案を作成し、平成31年4月に決定しております。また、当初大綱からの主な見直し内容ですけれども、1つが、教育施策の表現を一部見直したこと、それと、当初大綱では実施事業数が3本であったものを5本に増やしたこと、それとあとは、その中でいうと、事業本数ですとか内容は社会情勢に合わせて適宜見直しを図ることといたしました。この見直しですが、総合教育会議で協議、検討された際に、各委員から出されました意見等を踏まえまして整備されたものであります。

それでは、その見直しに係る各委員の方々からの意見ですけれども、主なものを掲載させていただきます。1つは、3つの柱に掲げた事業は常に見直しを図るべきである。2つ目で、大綱上部のキャッチフレーズや目的、取組等は普遍的なものであり、基本的に考え方は変わらないものである。見直す部分に関しては、変更の理由を明確にし、説明責任を果たす、そういった意見が出されまして、この内容を現在の大綱作成の際に反映しているところであります。

最後になりますが、3の策定に向けたスケジュールについてご説明いたします。本日の第1回総合教育会議では、1つ目として、今回の大綱見直しに係る方向性、2つ目として、次回に意見聴取を行うこと、3つ目として、今後のスケジュールにつきましてご確認をさせて

いただければと思います。本日、ご承認いただければ、次回以降のスケジュールとして、本年の11月26日に第2回総合教育会議を開催し、現大綱の評価の実施、教育委員の皆様からの意見聴取を行わせていただきます。その後、令和5年に入りまして、2月中旬を目途に次期大綱の原案を事務局で作成いたしまして、2月25日に予定しております第3回総合教育会議に原案を提出、協議いただいた後、市民の皆様への周知、意見聴取を行わせていただきます。その後、令和5年度4月上旬に最終案を作成し、下旬に令和5年度の第1回総合教育会議を開催させていただきます。新たな教育大綱を決定いただき、また、行政内部等の諸手続を経まして公表の流れとさせていただきたいと考えております。

以上で議題(1)教育大綱についての説明を終わらせていただきます。

○内野市長 ただいま事務局から説明がありました。総合教育会議において、本日は教育大綱の見直しの方向性を確認する、あるいは次回に向けた意見聴取を依頼する。次回に向けたということは、それぞれ皆さん意見があろうと思いますけれども、ここで1つずつやると大変なので、前回決めてから現在までに、骨格とかいろいろ見直しの考え方は、各委員さんございますか。

○濱田委員 先ほどの説明にありました現大綱の構成にある程度基づいて、その部分をいろいろと見直しながら、現状に合わせた形での教育大綱につくっていくというスタイルではないかと思いますので、取りあえず事務局からの評価、提案を11月までにいただければ、それに基づいて我々は意見をまとめていきたいと思っております。

○内野市長 ほかにありますか。

それでは、見直しの視点はある程度前回やった形の部分でいいということですか。

1つだけ気になっていることは評価ですが、評価は教育委員会でやって、この総合教育会議でやりますが、教育委員会ではえびなっ子しあわせ懇談会とかいろいろ委員会がありますね。そういったところで第三者の意見を聞くということで、そこに1回投げてもいいと思うのです。市でも外部評価委員会で市民の皆さんが集まった外部評価をしてもらっていますが、その部分で大体どうやっていくかは別にしても、内部が内部を評価するのではなくて、1回内部で評価した後、そういった委員会がありますから、あえてそういう委員会の活性化も図る意味で、えびなっ子しあわせ懇談会といった部分で皆さんの意見を聞くという場を設けて、それを踏まえて次回の評価をこの総合教育会議で出していただければと思うのですが、どうかな。できる？

○伊藤教育長 懇談会がありますので、教育委員さん方はもとより、社会教育委員会にも話を聞いてもらって評価をしたいと思っておりますので、了承しました。

○内野市長 そうすると、社会教育委員会とえびなっ子しあわせ懇談会、2つの委員会に皆さんである程度整理したこの間のものを見ていただいて意見をいただく。その評価の中で指摘とかいろいろ意見、提案があったら、それを受けて、これからそれを踏まえた意見を、今度は教育委員さんの中でいろいろ議論してもらって大綱の原案をつくっていく。そういう形でいいかな。

○教育部次長 はい。分かりました。

○内野市長 では、そういう形でお願いいたします。今日、えびなっ子しあわせ懇談会の委員さんもいらっしゃると思いますけど、あるいは社会教育委員さんいらっしゃいますか。よろしくお願いいたします。市民の視点から見た評価が必要なので、そういった形にさせていただいて、これからのスケジュールは、11月まではそういった形で進んでいくと。その部分で、時間的な問題として、来年の4月には大綱を決めないといけないので、その部分を踏まえて日程、スケジュールを組んでやっていただきたいと思います。

では、1番についてはよろしいでしょうか。

では、1番の教育大綱については以上であります。

次に、感染症対策のマスクについて、事務局からの説明をお願いいたします。

○教育支援課長 教育支援課、坂野と申します。着座にて失礼いたします。私からは新型コロナウイルス感染症対策としての児童生徒の学校生活でのマスクの扱いについてご説明いたします。

現在、学校では新型コロナウイルス感染症対策として、学校の新しい生活様式ガイドラインに基づいて学校教育活動を行っております。感染防止の基本として、当ガイドライン策定当初より、このように人との距離、マスク、手洗いの3点を基本として挙げており、このマスクの扱いにつきましては、「着用を原則とする」こととしております。あわせて、様々な要因から着用の必要がない場合につきましても、ガイドラインで次のとおり示してまいりました。例えば熱中症のおそれがある場合とか外遊び、それから、身体的、心理的にマスクをつけることが難しい場合、また、体育の運動時はマスクの着用は必要ないとしております。特に今年は6月下旬に梅雨が明けたことから、熱中症になる危険性が大きくなることが予想されました。そのため、5月23日には教育長メッセージとして、児童生徒の登校や下校の際にはマスクを外すように呼びかけました。また、熱中症がさらに心配された6月下旬には、児童生徒の安全のため、マスクを外すことを、より一層働きかけることについて、学校や保護者にお知らせを配信いたしました。また、ご存じのとおり、厚生労働省からもマスクの着用が必要ない場合について、このように屋内、屋外での場合、また学校生活における場

合について示されております。

ガイドラインが策定されて3年、子どもたちはマスクの着用を原則として学校生活を送ってまいりましたが、やはり表情が見えないことによるコミュニケーションの在り方については、その影響が懸念される場所でもあります。現在は着用が原則で、外してよい場合について示してまいりましたが、例えば今後、感染症の状況が改善されてきた場合には、逆にマスクをしないことを原則として、着用する場合について示していけるようなガイドラインの改定につきましても視野に入れてまいりたいと考えております。これは、今すぐ行うというものではございませんが、感染状況が改善された場合を見据えまして、このことにつきまして、ぜひ皆様のご意見を伺えればと思っております。ご協議賜りますようよろしくお願いいたします。

以上でございます。

**○内野市長** 今、担当からマスクの着用についてありました。はっきり言って、このガイドラインをつくる時は、感染者が急激に増えていっていませんでしたが、現在は急激に増えております。その急激に増えているのも、若年層の関係が多くありまして、家庭でかかる方が多いのではないかとされていますが、いいことは、重症者が少ないという現状があります。しかし、昨日もお医者さんと話したのですが、海老名総合病院では重症者の入院する人が多くなって、ベッドがマックスのときはよかったのですが、少なかったから、その体制を縮小したらしいのですよ。ここで増えて、今、大変な状況になっていると言っています。そういった部分では、この状況がもう第7波に入っておりますので、まずこの着用について皆さんの意見をお願いします。これは1か月前あたりに議論したそうだよ。

**○教育支援課長** はい。感染が大分収まってきたときに、このことが出されております。

**○内野市長** こころだよね。今、感染が拡大している。ところが、これから夏休み期間に入るでしょう。その辺は学校としては、ある程度収まってきたという段階での話として今日は受け取っていただいて、その意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。ありますか。

私から聞きたいのですが、私は今ワクチン接種をやっている、最初のころ、不織布のマスクでない普通の布の色がついたフェルトみたいなもの、それが楽なのでやっていたら、お医者さんから怒られて、あれはおかしいと。市長に不織布のマスクをつけさせると言われて、それからつけているのですが、マスクもいろいろなものがある、こう見るとみんな違うでしょう。そうですね。学校ではマスクはいいのだけれども、こういうマスクが基準だというのはないのですか。

それが1つと、私も昨日から3日間、マスクをしながらカラオケを歌ったのですよ。ゆめクラブの演芸会が小ホールであった。私の挨拶の後に、市長1曲と毎年あって、3年ぶりですが、3回歌って、マスクをしてカラオケを歌うのはとても苦しい。もう1つは、ふだんこうやって話しているからいいのですよ。市役所で打合せをして、職員の提案について意見するときががんがしゃべると、その後で酸欠状態になってくる。その辺があって、その部分では学校のマスクの基準は、着用の基準はいいのだけれども、種類はどう考えているか。

○伊藤教育長 現場からすると、そのあたりはどうなの。

○杉久保小学校長 現場はマスクをしています。杉久保小学校ですけれども、本校は子どもたちはいろいろなマスクをしています。不織布のマスクは多いには多いのですが、低学年の子なんかは比較的布の柄のついたマスクをしていることが多いです。

○伊藤教育長 先生たちは。

○杉久保小学校長 職員はもうほぼ不織布のマスクを着用しています。

○内野市長 布のマスクも感染予防としてオーケーなのかオーケーじゃないのか、その辺はちゃんと確認してあるのかな。

○教育支援課長 ガイドライン上では不織布が最も効果が高く、続いて布、ウレタンというふうに、このことはガイドライン上でも示しております。

○内野市長 そこですよ。何でも着用すればいいというものじゃなくて、私はウレタンのほうがいいのですが、接種会場に行くとお医者さんはウレタンは駄目だと言うのだよね。だから、ウレタンはやめたのですが、その部分でも、ここが空いているやつと、鼻にかぶったものと、皆さん違うじゃないですか。そういった部分で、学校に備蓄しているマスクは市から配布されたもの？

○杉久保小学校長 あります。

○内野市長 それはどういうのを持っているの。

○杉久保小学校長 不織布のマスクです。

○内野市長 そこまで規制する必要があるかという、問題はそこだよね。意外とマスクによっては、つけてもつけなくても効果がないというのものもあるらしいから、それをちゃんと確認してやっていただきたいなと思います。原則は不織布がいいのだということ、やはり保護者の人にも認識してもらおう。

ほかに何かありますか。

○濱田委員 やはり感染が収まってくるという前提で考えさせていただいたら、最後のページにあるように、今度は必要なつける場面を想定した基準に変えるのだと。着用すること、

この表現が非常にいいのではないかと思います。戻っていただいて教育長メッセージで、登下校時は外して可とするという話があったのですが、メッセージが出て、外しているお子さんたちは少なかったような感じがするのですよね。みんなつけていたようなので、逆に着用を必要とするときにつけなさいというよりも、外していいとかとはっきりと言ったほうがいいのではないかと思います。各ご家庭によっても条件が変わってくると思いますので、熱中症だけが心配であれば、登下校時は、例えば顎にマスクをかけて登校しなさいとか、いろんなやり方で顔を出すということを、この2年半、子どもたちは顔を覆い尽くしていますから、そういう機会を何とか与えるように工夫してみたらどうかと思いました。以上です。

○酒井委員 私もマスクの種類はいろいろな種類があるので、場面場面に合わせていいものがあると思うのですよ。例えば私は今、屋内の会議なので不織布をつけていますが、外で運動するときは布が垂れているような感じの息がしやすいもので運動するようにしています。自転車に乗るときとかも呼吸がしやすいですね。外でしていても大丈夫ですし、夏の暑いときは熱中症予防で温度が上がるのも防いでくれる機能があるものもあります。

あと、先日、学校に行ったときに思ったのは、ALTの先生が一生懸命英語で話してくれていても、口元が何も見えなくて、発音するときに、やはり口元を見て、どういう音を出しているのかというのを勉強するのに、ALTの先生の果たしている役割はすごく大きいと思います。例えば、口元が透明のケースになっているものとか、そういうふうなものを学校で準備してALTの先生とか、口元が特に見えたほうが指導的な効果が高い場合はつけるとか、どうしても顔を見てしっかり話をしたいというときも、そういうことを検討されてはどうかと思いました。自分が演劇をやっている、舞台をやるときも、やっぱり役者さんの顔がしっかり見えないと伝わるものが伝わらないので、耳からかけて、口元だけフェイスガードする商品で近畿大学が開発しているものであるもので、そういったものも少し研究して、外すことを一生懸命勧めるだけではなくて、適時シチュエーションに合わせたものを提案していくというのも考えていってはどうかと思います。

○内野市長 透明のマスクは苦しくない？

○酒井委員 透明のマスクはそんなに苦しくないです。結局、上のほうは少しあいているのですよ。それも感染予防ということを考えたら、今度は距離を取るとか、そういった対策と併せてやるとか、やはり口元は見えないと英語の勉強はもったいないなと思いますね。

○内野市長 学校の先生からしてもそうですね。生徒、児童に対してマスクをしてしゃべるよりも、全体が見えたほうがいいことはいいですよ。今の英語の先生の問題等含めて、先

生方が児童生徒に教えるときに顔を見せて授業を教えることが必要だろう。この期間中に、教育委員会でそういうことを考えていいのではないかと思います。もしも必要ならば、先生として意見があると思うのですよ。ですが、統一感を持って、学校の先生方は、ふだんは会話はこれでいいが、授業中は変えて、こういった形で口元だけ開けてやるとか、それはお金がかかると思うのだけれども、そういった形で整理してくれる？それを8月の初め頃までに9月の補正予算があるので、その部分で対策として新しい方法でやりましょう。それが正しいと思うのですよ。先生が叱っても指摘しても顔全体が見えないと分からない。目しか見えないから、怒っているのか、笑っているのかというのが分からないじゃないですか。それは絶対に必要だと思う。子どもたちも全部それが必要かもしれないが、そこまでいかないので、先生だけは授業をやるに当たって支障がない、いわゆる楽なマスクで対応していくことも必要だと思うので、ずっと同じ形ではなくてやっていく。先生はしゃべっているから、マスクがどんどん濡れてくるでしょう。演説なんてすると濡れて、議会でやると大体3枚ぐらい替えないとだめなのね。替えないと衛生的に悪いからやっていますが、そういった面では先生方は必要かもしれませんね。透明のマスクは、あれだったら消毒で拭けばいいので、そうでしょう。

○酒井委員 実際にやってみて研究してもらうのがいいと思います。

○内野市長 そう。いいと思うね。それを早急にやってみてください。

○伊藤教育長 それで、今、特別な透明なマスクとかあるけれど、口元の部分が見えると、子どもたちも実はちょっと違う。当初はフェイスシールドで先生たちをお願いしていた。フェイスシールドをこうやって、顔が見えるように先生たちはやっていたので、状況によっては、その形でやってみるというのも一つです。もちろんいいマスクは研究しますので、それ以外にもフェイスシールドか何か、ついていてこと自体に違和感がある。私は何でマスクのことにこだわるのかというと、私は教員を40年以上やっているのですが、子どもたちはこの3年間だけなのです。それまで1度も子どもは目の前でマスクをしていない。先生もマスクをしていない。これは新しい学校の生活様式で、このままこれが10年、20年とマスクをつけたまま学校教育をやるというと、多大なる懸念事項で、子どもたちの成長に驚くほどの影響を与えるのではないかと、すごく私は心配しているのですよ。普通にマスクをしていますが、これは今のこの期間はいい。でも、これが10年続いたら、子どもたちの成長、コミュニケーション能力というのですが、今懸念されるのは、子どもたちは小学校1年生、2年生の低学年とか中学年、中学生でそれぞれの発達の状況で、生活の中で身につける能力があるのですよ。それがこれによってかなり奪われる。その子たちがそのまま大人になったとき

に、大人として社会をうまく成立できるのかという問題にまでつながる。それから、子どもたちは顔と顔とか耳と耳、でも、耳だけれども、赤ちゃんがやるように口元を見て、目と一緒にこうやってコミュニケーションを取るのですね。それが全然なされない。その教育がずっと続くわけです。だとしたらおかしいだろう。そういうコミュニケーションとマスクに関してどっちが大事かという、私の心の中では、マスクよりもそっちのほうが大事だということがあります。だから、何とか感染症対策の中でもマスクを取って子どもたちの通常のよりよい成長のためにマスクを考えなきゃいけないということで、ここで問題提起させてもらいます。昨年の10月、11月、12月は3か月間、子どもの感染はゼロだったのですよ。1人も陽性にならなかった。そういう状況になったときにも、子どもたちはずっとマスクをしていたのですよ。そうなったときにはマスクを外して通常の生活をし、また感染が増えたらマスクをするという、そういう意味で本当に将来を懸念しているのでマスクを考えてほしいなと思うので、ここで皆さんと考えたいと思った次第でございますので、よろしく願いいたします。

○内野市長 ほかにありませんか。

○平井委員 子どもの学校生活はマスクを着用しないで生活するのが一番だと教育長は言われたのだと思います。その中で、今まではマスクの着用生活だったので、これからは学校生活の中で外せる場がどこにあるか。学校は考えていく必要があるのかなと思うのですね。学校の授業の中、1日の生活の中で、どういう場面で子どもたちがマスクを外せるのだろうか。夏休みに当たって皆さんで考えてみる必要があるかなと思っています。そういう中で、今後、2学期に向けて、どういうところでそれができるのか。例えば朝の会の10秒か20秒間、全員マスクを外してお互いの顔を黙って見るとか、学校のクラスの中や体育館や外、そういう中で子どもがマスクを外して生活できる、学習できる場面が幾つかは出てくると思う。それをやっていかないと、子どもや保護者の思いが、今の状況を見ているとあるように思います。登下校を見ても外していない子が多いです。だから、学校の中でできることをやっていかないと、マスク生活はずっと続いてしまうのではないかと思うので、この夏休みに学校として少し考えていただく時間を取っていただけたらいいなと思います。

○武井委員 皆さんの意見とご一緒なのですけれども、基本的には感染症拡大防止というところから、マスク着用は原則必ずというガイドラインもありますけれども、そういったところで、平井委員の言ったとおり、オンとオフの区分けを分かりやすく子どもたちができるような環境をつくってあげなきゃいけないのかなと思いました。感想です。

○内野市長 1つだけ、なぜ子どもが登校時にマスクを外さないかという、外してどこに

保管するかということがあるよね。ポケットに入れてくしゃくしゃにしちゃって、あるよね。そういう部分で、少しやり過ぎかもしれないけれども、学校で外す部分については、よくホテルで紙のマスク入れってあるじゃないですか。ああいうものも用意していいのではないか。やり過ぎかもしれないけど、マスクは口にはめるものだから、ポケットに保管しても衛生的なものが出てくるし、あるいは放置してそのままでもいいかという問題じゃないと思うのですね。

そこら辺も踏まえて、ホテルなどに行くと、みんな横にあるのですね。食事するときにはマスク入れというのがあって、そういったものがティッシュペーパーのように使われているホテルがあるので、そういったものも参考にして、今後のマスクの着用で、外す場合は外す。でも、外したときに、どういう形で持っているか。それも1つの基準になっていくと思います。さっき言った先生方のマスクも昔はあった。あれだって、最初のころはこうだけど、今はいろいろなものもできているので、そういったものをちょうど夏休みに入るので、教育委員会のほうでいろんな面でいいものを追求してもらって、やりやすくやっていきたいと思いますので、これについてはよろしいですか。

その部分では、今は感染が拡大しているということではありますが、マスクを着用しないことを原則とするというのは、これから2学期に入ってからだと思いますけれども、それまでの間に、こういった形にするにはこういった形を注意しようということで、再度検討、研究していただきたいと思います。いいですか。

では、以上でこれを終わります。

3番目、給食についてを議題としたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

○**栄養教諭** 栄養教諭の山内です。着席してご説明させていただきます。

海老名市の学校給食は、市内13校の小学校のうち、こちらの食の創造館では12校の小学校給食を作っています。1校は校内にある調理室で作っております。献立は市内統一で、13校同じ内容になっております。現在、こちらの食の創造館では、約7,300食の給食を作り、学校へ届けております。食の創造館には栄養教諭が3名、管理栄養士が1名おり、献立作成、衛生管理、食育指導等を行っております。給食調理は業者に委託をしております。

給食の基本理念は、「海老名の子どもたち、ひとりひとりの『おいしい笑顔』のために！」、子どもたちが食に対する理解を深め、健全な食生活を実践し、一人一人が笑顔になる給食を目指します。基本理念を実現するための基本方針、多様な食材を使った新しい献立の作成、「地産地消」による旬の食材の活用、行事食や伝統食、特別職等を推進、発達段階に合わせた食の指導の充実となっております。

次に、基本計画の「魅力ある給食」を推進する4本の柱についてご説明させていただきます。

1つ目の柱は、おいしさについて。多様な食材を活用し、食材本来の味を生かしながら、みそ汁などはさばぶしでだしを取り、塩分を控えた献立を取り入れます。温かいものは温かく提供できるよう工夫いたします。

2つ目の柱は食材についてです。給食の食材は、学校給食物資購入選定委員会の会議において、安全で安心、新鮮なものを選定し、使用しております。また、季節感を感じられるような旬の食材を取り入れて、地産地消の推進としては、海老名市内で取れたものを積極的に給食で使用しております。

3つ目の柱は献立について、子どもたちが食べたくくなるような魅力ある献立の工夫を行ってまいります。また、子どもたちに伝えたい味、覚えてほしい味を提供いたします。行事食や特別職など、子どもたちがわくわくするような献立も取り入れていきたいと考えております。

4つ目の柱は食育の推進についてです。食の恵みや生産者へ感謝する気持ちを育むために、給食は子どもたちが食べるまでに多くの人たちが携わっていることを食育指導の一環として伝えていきます。子どもたちへ生産者の声を届けることも、食への興味・関心や深い学びにつながっていると感じています。また、同時に家庭へ情報提供を行い、食育推進に努めてまいります。

次に、食育を推進する栄養教諭の役割について。全体計画を作成し、食に関する指導を実施しています。関連教科や学級活動における食育の実施については、学校へ伺うことはなかなかできないのですが、子どもたちからの質問に直接答えるなどの対応もしています。また、今年度も市内小学校4年生を対象として、朝ご飯をテーマに食育指導を行ってまいります。指導の前には事前アンケートを実施し、そのクラスの実態に合った指導を行います。そのほか、食物アレルギー対応についても学校へ協力もしております。

ネットワークによる食育の推進について。こちらは栄養教諭を中核とし、食育の推進を図ります。また、情報提供や資料提供など様々な形で学校と連携をしながら食育の推進を行ってまいります。

次に、食の指導、取組と実績についてです。栄養教諭の出前授業では、先ほどお話をしたネットワーク校への食育授業や情報提供など、4年生を対象とした出前授業、また、学校からの希望により、ほかの学年での食育指導なども行っております。保護者に発信する取組として、食育日より「もぐもぐパクパク」を指導主事の先生と協力して SumaMachi メール（学

校メール)を保護者へ配信をしております。そのほかに給食の試食会や食の創造館見学、家庭教育学級などを行っております。また、食育担当者会議を年2回開催し、情報交換を行っております。

魅力ある給食のための企画として、インターナショナル給食では、様々な国の料理を給食用にアレンジして取り入れております。ふるさと給食では、海老名産の野菜とエビフリッタが入ったえび〜にゃカレーライスなどを考えました。今後も、各地方の郷土料理などをアレンジして取り入れます。

また、令和3年11月に新潟県新発田市と災害協定が結ばれ、学校給食に新潟県新発田市のコシヒカリも提供しております。また、今年度、給食献立コンテストの実施もいたします。

最後に、私たちは、海老名の子どもたち一人一人のうれしい笑顔のために、安全で安心な給食を職員全員で協力して作ってまいります。また、令和5年9月からの中学校の完全給食に向けて全力で取り組んでまいります。

以上になります。ありがとうございました。

○内野市長 今、栄養教諭から説明がありました。皆さんのほうからご意見ありますか。

ここで給食を食べた教育委員の人、手を挙げてください。

○濱田委員 子どもの頃は。

○内野市長 小学校の頃。小学校、中学校。

○伊藤教育長 食べていませんか。

○内野市長 食べていない。この辺、誰も食べていないよ。平井委員と私と濱田委員は食べていない。武井委員だって、小学校だけでしょう。中学校食べていないでしょう。

○武井委員 小学校だけです。

○酒井委員 中学校までです。

○内野市長 そうでしょう。中学校まで。

○伊藤教育長 私は小学校まで。

○内野市長 そうなのです。教育委員会の職員で小学校から中学校まで給食を食べていた人は手を挙げてください。小学校から中学校だよ。あの頃やっていた。それで残飯が残ってやめた。そう、まずは小学校だけ食べている人は、いるのですね。全く食べたことのない人は、いない。私の年代だけです。そういうことで、何かございますか。

私から。私ははっきり言って、学校給食は好き嫌いが多くて駄目なのですよ。7月の盛りつけの表を見たら、半分は食べられて半分は食べられない。その中で、申し訳ないんですけど、3日間ぐらいはあまり食べないで昼を過ごすという形になるのですね。スパゲッティ

はミートソースですか。学校給食って、スパゲッティというミートソースしかないのですよね。ナポリタンもありますか。

○**栄養教諭** ほかのも出すことはあるのですが、子どもたちに人気なのがミートソースなのです。

○**内野市長** そうなの。これを見ているとハンバーグ、生姜焼きってどこにもないのですよ。凝っていて、豚肉の何かはあるのですよね。照り焼きチキンはあります。鶏肉のから揚げにバーベキューソースをかける。別から揚げだけでいいのではないかと思うのですよね。それから、いろいろ凝り過ぎているかなと思うのです。アンケートを取ってこれからやると思うのですよ。秦野市は献立コンテストをやるということで、保護者、生徒、それから教職員、いろいろやるのだけど、うちもそういった形でやっていただいて、1つ私が思っているのは、よく議会で、皆さんの言ったように食育という話があるのです。いわゆる人間1人一日3食食べると、1年に1,000食ぐらい食べる。学校で食べるのは160食ぐらいで、16%ぐらいになる。それで食育ができるかといったら、いわゆるカロリー計算をしながら作っていく模範的なことはできると思います。ところが、家庭でどうしているかということが必要だと思うのです。そうすると、家庭に対する教育が必要なのです。皆さんが作っているもので簡単に作れるものを出してあげればいいのですよ。言っていることは分かりますか。例えばの話、こうやると子どものカロリーとかが計算されていいですよというものをメニューで出してあげる。今、料理レシピサイトで見ると全部作り方が出てくるのです。動画も出ていし、この時間に入れるとか、最高ですよ。それをやって失敗しても、また再度挑戦して、3回ぐらいやるとうまいく。ですが、皆さん今、ほとんどの保護者はそうやっているのですが、食育という観点において、こういったことをやっていったほうがいいですよとか、そういった形も私は絶対に必要だと思う。何しろ学校では16%しか食べていない。あとほとんど8割以上は家庭なので、幾らこうやって栄養評価を考えても、家庭で夜はファーストフードへ行って食べて、朝はパンを食べて、そういうお子さんがいっぱいいるわけです。そういったことを考えながら、家庭での食育の観点から献立を少し考えてあげてレクチャーをしていくということが必要じゃないかな。

もう少し私は思うのですが、小学校でいいのですが、やはり1か月にハンバーグは絶対に入れてほしいと思います。ハンバーグと生姜焼きはあったほうが良いと思うのです。市役所の地下食堂が中華料理屋になったのですよ。そうしたら、職員があまり行かなくなりました。毎日中華を食べさせていたら、お弁当のほうも人気が出てきた。カツ丼などを出す。カツ丼は学校給食に出ますか。カツ丼はできなくてもカツ煮はできるので

はないですか。

○**栄養教諭** 検討いたします。

○**内野市長** だから、丼物はできなくても、その上に乗せるものを別枠でやるということは楽しいではないですか。カツもいろいろあって、ロースカツだと端っこと真ん中とでけんかになるのですよね。端っこは脂身になっちゃうので、真ん中を取る人間をじゃんけんで決めていけば真ん中となる。だけど、脂身が好きな人もいるのですよね。

中学校給食は本当に難しいと思います。大人と同じような感じでやらないといけないし、一番成長期でぐっと伸びるから、そこで中学生が食をがまん食べることによって体力ができて、そうになっていくわけです。今食べない子どもたちが多くなっているので、そういった部分を研究しながら、子どもたちが望むものをカロリー計算して、どうやってバランスよくやるかというのを考えていただきたいと私は思っています。献立表を見ると、私ははっきり言って7月は学校へ行きたくありません。学校給食があれば好き嫌いは直ったかもしれないけど、それはあるかもしれない。

○**伊藤教育長** でも、直らない子は直らないですよ。

○**内野市長** 僕も出されたら取り除く。

もう一つ、メニューはあるのですが、個人的にいろいろな話で、お楽しみ献立があってもいい。アレルギーの子どもたちには学校は前もって教える。だけど、子どもたちが見て、あ、何だろうという、そこにハンバーグが出てくるともっとうれしいね。それも、ハンバーグもでかい300グラムですとか。

○**濱田委員** 説明いただいて本当によく分かりました。栄養教諭の先生方は本当に大変だなということで、本当にありがとうございます。特に役割とネットワークの中で質問させてもらいたいのですが、出前授業の中に全ての小学校4年生を対象に出前授業の中に全ての小学校4年生を対象に出前授業を実施している。出前授業は、栄養指導の先生方はどんなイメージの授業をその中でやっていらして、4年生の反応はどんな感じなのか、少しご紹介いただけたらと思います。

○**栄養教諭** こちらは全校の4年生に行かせていただいております。朝ご飯でいいことはどんなことがあるということで子どもたちに話を持っていきながら授業を進めさせていただいて、残りの15分でワークシート、感想文を書いていただくのですが、その中で、子どもたちの反応はすごくよくて、今回、上星小と柏ヶ谷小学校の2校にしか、まだ授業は行かせていただけていないのですが、朝ご飯の大切さをすごく実感しましたということで、これから頑張って食べますと言ってくれるお子さんたちがかなりいます。どんなものを食べた

らいいよとか、朝ご飯を食べるとこんないいことがあるよといった話を、栄養教諭と管理栄養士がおりますので、1クラスに1人入って授業をさせていただいております。

○濱田委員 分かりました。ありがとうございます。できたらそういうクラスの反応を各保護者というか、ご家庭にリターンするような工夫があると、朝のご飯が大事というのも出てくるのではないかと思うし、好き嫌いが解消されるのではないかと思いますのでね、市長、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○内野市長 ほかにございますか。

○武井委員 僕は生姜焼きが大好きなので、ここにはないのは残念なのですが、メニュー表を見まして、総カロリーが大体600前後とか塩分が2.数グラムとかあるのですが、すごく感心したのが、このメニューで塩分量はこの量にしてあるということがすごくびっくりしていて、味の濃さがないのかなというのは心配です。少なくとも上手に作ればいいのですが、おみそ汁1杯で、簡単に塩分は2グラムいってしまいますし、梅干しも1つで2グラムぐらいいってしまうので、このメニューで2.数グラムはすごいなと思いました。

あとは、地産地消の部分で、海老名市や農政課にもう少し要請して、海老名市で空いている農地とかにこういった野菜を作ってほしいと要望して、そういったことが海老名市の子どもたちが地産地消で野菜を食べられることと、もう1つは海老名の空いている農地を有効活用できるのかなと思いましたので、今、海老名で使われている野菜は数種類しかありませんので、そこをもう少し連携していけたらいいなと思います。

食育という点で、ここの献立表の一番下を書いてあるのですけれども、これを読むとすごくよくて、一応私は食育インストラクターを持っているのですが、これは意外と見る方は見えていて、例えばたんぱく質を取ると筋肉とかになるとか、食物繊維を取ると細胞の分裂にいいとか、ここの一番下の欄に少しだけでもいいので、豆知識でちょこちょこ書いていただくと、子どもたちの食育につながる。食育はなかなか難しいと思ひまして、子どもたちも全然聞いてくれませんし、夏野菜を食べると利尿作用があるとか、根菜類を食べると体が温まるとか、ちょっとしたことでいいので、ここの部分を毎月変えていただくとありがたいかなと思いました。

以上です。

○酒井委員 中学校の給食が始まるに当たって、中学生は部活動で運動しているお子さんがすごく増えるので、ぜひ運動するための体づくりに必要な栄養素についてなども発信していただけるといいなと思いました。

あと、給食は1週間のうちの5食ですが、ちゃんと計算されたバランスのある食事を取ら

せていただくことで助かっているなと思うところも保護者としてはあるので、ありがとうございます。家庭がいつもきちんとした食事を作れば、もちろんそれが一番いいのですが、なかなかそうもいかないし、学校の給食を通していろんな食材に触れ合っているというのは、本当に日々、子どもが給食を食べているときに感じておりましたので、これからも頑張っ  
て作っていただきたいなと思います。

あと、提案ですけれども、例えば月に1回、デザートなどを出していただいたら、そのときに併せて学校のほうでクラスが仲良くなるためにも、お誕生会をやるとか、学期の終わりにデザートを出して、1学期みんな頑張ったねといった会をやるとか、そういう子どもたちが学校の中でほっとしたり、楽しいなという気持ちを育む機会に給食になるとすごく良いなと思います。

最後に1点、地産地消の取組ですけれども、やっぱり海老名の中で作っていただいて、それを食べるというのがベストだとは思いますが、作られているお野菜の種類に限りがあるのだったら、近隣の綾瀬市さんとか厚木市さんとか、広いところにも少し声をかけて、仲良く、ここの近隣で取れている野菜なのだよというのも子どもにとっては近隣市とも仲良くやっていくきっかけになると思いますので、ご検討いただけたらと、教育長もよろしくお願  
いします。

○内野市長 ほかにございますか。

○平井委員 私も長い間、学校給食を食べてきましたけれども、7月の献立も見させていただいて、大分バラエティーに富んでいるな、今の時代にふさわしい給食になってきたな。さすがに夏だからおでんは出ないけれども、私の中ではおでんがすごく印象に残っています。

7月の献立の中でちょっと気になるのが、私がいた頃と変わっていないなと思うのがデザートですね。このデザートが、例えばアップルコンポート、これはずっと出ていると思います。ゼリー類とか、こういうものは家庭で十分食べられるものだと思っているのですね。ですから、やはり学校給食でこういうものを頻繁に使うのはいかがなものか。私は現場にいるときから、そういうふうにならなと思ってきました。これをほかのものに変えられないのだろうか。例えば季節の果物、スイカ、メロン、イチゴ、物価が高いといえればそれまでかもしれませんけれども、月に1回や2回はそういうものを出してあげたいと思ってずっときました。今回も見させていただいて、割と簡単に手に入るものが多いので、このあたりは今後の献立の中で、これから秋になると果物もいっぱい出ますので、そういうものをぜひつけていただきたいと思うことが1点です。

2点目、献立の中で「食べなくなる献立」への工夫とか、「慣れ親しませたい味」という

ふうにあります。こういうものが一方的なものではなくて、例えば指導に行ったときに、子どもたちにアンケートを取って、子どもたちが何の給食をおいしいと思っているのだとか、どういう味を好んでいるのだろうか、学年は限られるかもしれませんが、子どもたちの現場の声を聞いて、それを今後の給食の献立に生かしていく。ただ一方的に投げかけるだけではなくて、そういうふうにしていかないと新しい海老名の給食は望めないのではないかと。

もう1つ、中学校給食が入ってきますので、今後、相当いろんな形で工夫をしていかないと、海老名の海老名らしい学校給食はできていかないのではないかなと思うのですね。ここがいい節目だと思いますので、いろんな形でやったださっているのは非常に評価をしますが、それが具体的にどういうふうに進めていったらいいのだろうかということまでしないと、この物価高の中で、ただただ食べさせているというだけではいけないのではないかと、ぜひそのあたりをお願いしたいと思います。

**○内野市長** そういうことで、2つあるのですが、1つは、物価が上がっているから、これを落としていくということは絶対しない。それだったら早めに市教育委員会から市のほうに言っていただければ、大体出せる。それが公会計ですから、学校給食費を私会計でやっているときは、そういうことはできません。公会計は、子どもたちに、より良いものを食べさせたいという気持ちでやれば、それは市としてお金を考える。それは言うてありますので、それだけは栄養士の皆さん、よろしくをお願いしたいと思います。お金がないから質を落とす、いわゆる牛丼が豚丼になるようなことはないようお願いしたい。牛丼は牛丼、豚丼は豚丼なので、そういったことをお願いしたい。

もう1つは、今はいいのですが、冬になると牛乳の話題が出てくる。それについて今いろいろ教育長とも議論しているのですけれども、中学校は今後、電子レンジを置こうと思っています。電子レンジの置き場は学校現場が研究しないとイケないのですが、この間、メグミルクに行って、牛乳を電子レンジに入れて温めるような容器はないのかと言ったら、今の段階ではないそうです。どうしても爆発する可能性がある。それで、自分でコップに移し替えて電子レンジにかけて、飲んだらそのまま廃棄するという形も取れるので、ようやくその辺も研究したい。今、本当に牛乳を飲む、飲まないとあるのですけれども、冬に飲みたくないという子もいるのですね。冷たいものだから、その部分は考えないとイケない。

なぜ私がこれを言うかということ、小学校のときに、牛乳で私は不登校になったのです。小学校2年生のときに1か月、学校へ行かなかった。牛乳がすごく嫌で、夏は友達が飲んでくれるのです。冬は飲んでくれないから、学校は飲めという。それを飲むのは絶対嫌だといっ

て不登校になった経験があるので、やっぱり飲みたくないものは飲まない。だけど、牛乳は温めれば飲めるので、そういったことも今後考えるべきだと思うのですよ。学校には調理器具もいっぱいあるじゃないですか。そういうところで温めて飲んでいいよということでやれば、どんどん変わっていくのではないかと思うので、何かあったときにどうするというのではなくて、こういうふうにやればいいのではないかということを考えてほしいのですね。これから学校給食の再出発だと思うので、どうか今後、来年の2月に向けて、小学校のほうも含めて見直すところは見直していただきたい。できればハンバーグと生姜焼きをお願いして、給食については終わりにしたいと思います。

それでは、ここでそちらにお渡しします。

○専任参事 様々のご意見をありがとうございました。これで協議事項は全て終了いたしました。この後、発表に移りたいと思います。

準備がございますので、申し訳ございません。15分程度休憩をいただきたいと思います。正面の時計で25分から再開ということをお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

( 休 憩 )

○専任参事 それでは、次第に沿いまして4の発表に移りたいと思います。これからは社家小学校の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

○教育支援課指導主事 では、こちらの画像をご覧ください。市内小学校の教室に掲示してある時間割表です。私たちが子どもの頃にはなかった「外国語活動」があるのが分かります。

海老名市では、小学校1年生から外国語教育に取り組んでいます。1・2年生は年間10時間、3・4年生は週に1時間、5・6年生は週に2時間です。もはや中学校1年生になってからABCを勉強するという時代ではなくなってきています。

学習指導要領では、「外国語によるコミュニケーション能力は、生涯にわたる様々な場面で必要とされる」、また、「ネイティブ・スピーカーなどの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと」としており、外国語教育の充実を図りましょうとされています。

では、なぜ外国語教育が大切なのでしょう。次のグラフをご覧ください。日本にいる外国人の方の数を表したグラフです。ご覧のとおり年々増えているのが分かるかと思います。一番右側、最近2年間は新型コロナウイルスの影響で、やはり外国人の方は少し減ってきているところがございます。今後ますます日本においても外国人の方と関わる機会が増えてくることが予想され、外国語教育の必要性、まさに今、必要とされているのではないかと思います。

っているところです

続いて、学校にいる外国に関わりのあるお子さんの数、こちらもグラフをご覧くださいと分かるとおり、年々増えていることが分かります。将来とは言わず、もう今から子どもたちの座っている机の隣に外国籍の子がいるという状況が起きている。多文化共生を深める必要性があります。

さらに、Society5.0の時代では、AIが発達して、10年度、20年後には、今ある仕事の約半数がなくなってしまうと言われてしています。

そんな中、企業が求める人材ランキングの常に1位に挙がるのが「コミュニケーション能力」です。とりわけ英語でのコミュニケーション能力が必要と言われてしています。ただ、とはいっても、中高生にとっては受験がありまして、英語って勉強の一つかなと考えてしまう子がいるかと思えます。どうもコミュニケーション能力が後回しになってしまう。しかし、入試も変わってきそうです。大学入試のあり方に関する検討会議では、今後、スピーキングテストの導入も検討していると言われてしています。まさに外国語教育は、これからも必要になってくると言えるかと思えます。

海老名市では、「英語でわがまちを語り、世界の人々とのコミュニケーションを楽しむことができる『えびなっ子』」をテーマにして、これまでも外国語教育に取り組んできました。

では、市内小学校で行われている授業の様子を一部ご覧ください。動画です。

( 動 画 )

**○教育支援課指導主事** 児童の会話の相手役として外国人の方、ALTさんがいたのが分かったと思います。海老名市では、このALT（外国語指導助手）さんを平成14年度から市内小中学校に配置しています。ネイティブな英語に触れる機会を、これまでもたくさん設けてきました。ほかにも、1つの学校に市内のALT全員を配置して英語に親しむ日を設ける「イングリッシュデー」という授業にも取り組んでまいりました。それ以外にも、先生方向けの研修、専科担当教員による授業、綿密な打合せの時間の確保、そういったことを通して、先生方とALTとが協働、連携してこれまでも外国語教育の推進を図ってまいりました。

その結果、令和元年度全国学力・学習状況調査（中学校3年生）では、海老名市の平均正答率は神奈川県や全国の割合をも上回っております。ちなみに、この神奈川県の59%は、全国都道府県別ランキング1位の数字です。それをも海老名は上回っているというような結果が出ております。

また、昨年行われた英語教育実施状況調査の結果、英検3級相当の英語力を有すると思われる中学校3年生の割合、こちらも神奈川県や全国の割合を海老名市のお子さんは大きく

上回っているという結果が出ています。

さらに、外国語教育アンケートを先月取らせていただきました。「ALTとの関わりは、外国語でのコミュニケーションに慣れ親しむことや、英語の技能の習得に役立っている」という質問に対して、小学校、中学校の先生方ほぼ全員が肯定的な回答を示しております。また、「ALTとの関わりにより、児童生徒は異文化に慣れ親しむことができている」という質問に対しても、高い数字、肯定的な回答が得られているところです。

それでは、私の説明が長くなってしまったので、これから先、社家小学校の児童の皆さんに、海老名市外国語教育の学習の成果を代表して発表していただこうと思っております。

本日は、社家小学校より10名の児童さん、そして先生方、特別に本日はALTの方にも来ていただいて発表をしていただこうと思っております。それでは、社家小学校の皆さん、よろしくお祈りします。(拍手)

○JTE (日本人英語指導者) Hello.

○ALT (外国語指導助手) Hello.

○JTE Nice to meet you.

○ALT Nice to meet you too. My name is Yan.

○JTE Oh. Yan! I'm Yuito. Nice to meet you too. Where are you from?

○ALT I'm from Philippines.

○JTE Oh Philippines. I see. I want to go there someday.

○ALT Oh please visit.

○JTE Today I hope that you enjoy the conversation with our students.

○ALT OK! I'm looking forward to it.

○JTE Yes. Anna. Are you ready?

○児童1 OK!

○JTE Thank you.

○ALT Hello.

○児童1 Hello.

○ALT My name is yan. What's your name?

○児童1 Hi! My name is Anna. Nice to meet you.

○ALT Nice to meet you too. How are you today.

○児童1 I'm fine. I was looking forward to this day. How about you?

○ALT Oh, I'm great. So Anna, I'm live in yokohama. Where do you live?

○児童1 I live in Ebina.

○ALT Ebina?! I want to visit some good place in Ebina.

○児童1 OK!! We have サービスエリア.You can eat Melon bread. It's famous and delicious. Do you like Melons?

○ALT Yes, I do. I want to try it! Anything else?

○児童1 OK!! We have ららぽーと.You can eat delicious food there. And You can enjoy ショッピング.

○ALT Oh! Sounds nice. I want to enjoy it, too. Anything else?

○児童1 OK. What food do you like?

○ALT I like fruits. I like strawberries!

○児童1 OK! It's famous, too. In 有馬 we have ストロベリーファーム. There are many tourist spots. There is Ebina central park.

You can see the 五重の塔. Please try to see the 五重の塔.

○ALT 五重の塔. Looks very nice.

○児童1 And Ebina has a character. It's えびーにゃ. えびーにゃ is so cute.

○ALT えびーにゃ?

○児童1 えびーにゃ。

○ALT えびーにゃ is a cat strawberry shrimp. So cute! All right. Thank you so much for telling me about Ebina.

○児童1 You're welcome!

○ALT I will visit it. Thank you. (拍手)

  

○ALT Masayuki. Hello.

○児童2 Hello.

○ALT Masayuki What school do you go?

○児童2 I go to 社家エレメンタリースクール!

○ALT Shake Elementary School?

○児童2 Yes! It's a wonderful school.

○ALT Really? What do you have in Shake Elementary school.

○児童2 We have a big library. It's wonderful. There are many kinds of books.

○ALT Oh nice. I like reading.

○児童2 We have a rabbit. It's very cute. The name is Marshmallow.

○ALT Marshmallow. Oh, he's very fluffy, very cute too.

○児童2 We have a large school playground. It's a very fun place. I like playing tag.

○ALT Oh, me too. I like running really really fast. Can you run really fast?

○児童2 So so. We have a mascot of our school. It's Syakekkuma.

○ALT Syakekkuma?

○児童2 Syakekkuma.

○ALT Oh, he looks very cool.

○児童2 It was made in the 40th anniversary of our school.

○ALT 40th anniversary. Wow! very historical. Nice.

○児童2 Please visit 海老名 & 社家エレメンタリースクール.

○ALT I will. Thank you so much.

○児童2 Thank you. (拍手)

○ALT All right. Anna, Thank you for telling us about Ebina. Masayuki thank you for telling us about Shake Elementary school. Now I'm very thirsty. Haruto, hello.

○児童3 Hello.

○ALT Haruto, I'm very thirsty. I want to drink iced coffee! Do you have a café in Ebina?

○児童3 OK! In Ebina we have ナイスカフェ!

○ALT Oh, Nice café, inform nice! Where is ナイスカフェ?

○児童3 Look at the map! I'm in 食の創造館. Turn left at the corner. And Go straight. You can see Nice café on your right!

○ALT OK! All right. I'll visit after this! And then, I want to watch a movie! I want see the new Buzz Lightyear movie. Do you like Buzz Lightyear?

○児童3 Yes, I do.

○ALT Oh nice. Where is the cinema?

○児童3 I see! Go straight and turn right at the 海老名駅入り口クロスロード. And Go straight. Turn right at the 中央公園南クロスロード. You can see the シネマ

on your right.

○A L T OK! I got it. Thank you so much.

○児童3 Thank you.

○A L T Thank you. (拍手)

○J T E Next students speak English presentation. Haruto. Are you ready?

○児童4 OK!

○J T E Let' s start.

○児童4 Hello! My name is Haruto. I' m from Shake.

I can swim. I can play dodgeball. I' m good at dodgeball.

I like chocolate. I like eggs. I don' t like eggplants. I don' t like snakes.

I want to go to Disneyland in summer vacation. Thank you. (拍手)

○児童5 Hello! Welcome to Ebina! We have Vina walk. You can visit 五重の塔.

It' s very high.

You can enjoy city festival. It' s so fun.

You can eat snow corn. It' s delicious. You can see fireworks. It' s beautiful.

You can eat melon bread. It' s delicious. Thank you. (拍手)

○児童6 Hello! I want to tell our teachers. She is Reiko Umezaki.

She is our principal. She likes chocolates. She likes cooking.

She doesn' t like パクチー. She doesn' t like insects.

She can play the piano. She can make cakes. She is kind. She is serious.

Thank you. (拍手)

○J T E Finally, we will show you the scene of conversation. Students talks about their heroes and the summer vacation.

Saki & Natuki. Are you ready? OK! Let' s start!

○児童7 Hello.

○児童8 Hello.

○児童7 What do you want to do in summer vacation?

○兒童8 I want to go to the pool. I like pool. It' s cool. I like shaved ice.

○兒童7 Oh You like shaved ice?

○兒童8 Yes. It' s delicious. I like watermelon.

○兒童7 Why?

○兒童8 It' s sweet.

○兒童7 Oh I see.

○兒童8 How about you? What do you want to do in summer vacation?

○兒童7 I want to go to summer festivals. I like fireworks.

○兒童8 Me too.

○兒童7 It' s beautiful. And I like apple candies. It' s delicious.

○兒童8 I see. Thank you.

○兒童7 Thank you. (拍手)

○兒童9 Hello.

○兒童10 Hello.

○兒童9 Who is your hero?

○兒童10 My hero is my father.

○兒童9 Why?

○兒童10 I like my father. He is kind, cool, and funny.

○兒童9 Oh. I see.

○兒童10 He can play the drums. He can play baseball.

○兒童9 Oh! Your father likes baseball?

○兒童10 Yes. How about you? Who is your hero?

○兒童9 My hero is my mother.

○兒童10 Why?

○兒童9 She likes kiwi fruits. She is good at cooking and playing the piano.

○兒童10 Oh, I see.

○兒童9 She is kind. She can swim.

○兒童10 Oh, Your mother likes swimming?

○兒童9 Yes.

○兒童10 Thank you.

○児童9 You are welcome.

○JTE That's all for today. Thank you for listening. (拍手)

○教育支援課指導主事 では、最後に少しアンケートの続き。先ほどのアンケートを小中学生の子たちにも取りました。「外国語の学習は大切だと思いますか」という質問に対して、非常に多くの子が肯定的な回答を示しています。また、「外国語が使えるようになりたいですか」という質問に対しても、多くの小中学生が「になりたい」というように回答しています。私たちは外国語を「学びたい」、「できるようにになりたい」というえびなっ子を応援したいと考えています。

今後、海老名市は外国語教育を推進してまいります。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。(拍手)

○専任参事 社家小学校の皆さんの発表でした。いま一度大きな拍手をお願いしたいと思います。

(拍手)

○専任参事 大変ありがとうございました。それでは、今回の発表を踏まえまして、委員の皆様、ご意見等ございましたら、お1人ずつただけましたらお願いしたいと思います。

○濱田委員 先生方、それから生徒の皆さん、お疲れさまでした。大変素晴らしい会話になっていましたし、ほとんど原稿も見ないで話していらっしゃって、皆さんのお話していることは理解できるのですけれども、なかなか英語であれだけしゃべるということはできないと思いました。大変素晴らしい発表になっていたと思います。ありがとうございました。

1つだけ、ららぽーとは何回も出てきたのだけど、ビナウォークって出てこなかった。ビナウォークも知っていますよね。ありがとうございました。

○酒井委員 ありがとうございました。とても英語を楽しんで勉強していらっしゃるのだなと思いました。1個、質問してもいいですか。英検を受けたことがありますか。ぜひこれからは英語の勉強が進むので、学校の勉強をしていくと、英語の検定とかも受けていけるようになっていくと思うので、中学校に行っても英語の勉強を、ぜひ楽しく頑張ってください。応援しています。

○武井委員 皆さん、お疲れさまでした。すごく上手な英語でびっくりしました。おじさんも若いときはニュージーランドに行って「ランドマークホテルをお願いします」とタクシーで言った途端に、Rの発音が悪くて、とうとうそこまで着けませんでした。しょうがなくパンフレットを見せたという過去がありますけれども、みんなが英語を覚えて何かやりたい

というのはありますか。この英語を使って何かやってみたい、何か体験してみたいとかありますか。

○**児童** 僕は車が好きなので、外国のメーカーとかにも英語を使えるようになって行ってみたいなと思います。(拍手)

○**武井委員** 何か目的を持つと早く覚えられると思いますので、これからも頑張ってください。

以上です。

○**平井委員** すばらしいですね。継続して学ぶというのはこれだけすばらしく、少しうるっときますね。6年間ずっと学んできましたか。その6年間の継続の学びというのがすごいのだなと思います。私の頃はまだALTの先生も少ない中での学校でしたから、本当に学ぶ時間も少なかったのですが、今は充実していると思います。本当にこれから、もっともっと皆さん、力を発揮して、海老名で本当に学んでよかったというふうに思えるだけ、小学校でも中学校でも勉強してほしいと思います。

今、ALTの先生は週に何回見えてくださっているのですか。

○**児童** 2回です。

○**平井委員** 週に2回。できればALTの先生と毎日一緒に生活できるというのは大きいかと思うのですね。もう本当に日常の学校生活の中でALTの先生と一緒に英語で日常の会話ができるという生活ができたなら、もっともっと皆さんの力が伸びていくのではないかなと思います。ぜひALTの先生を各学校1名。

○**教育長** 今1名いるので。

○**平井委員** 常置でできたらいいなと思うのですね。

○**教育長** 授業には、いるのですか。

○**教育支援課指導主事** 授業にはいます。

○**平井委員** 毎日学校にいてくださって、そして生活できて、子どもたちと接することができたら、もっともっと海老名の英語力は伸びるのかなと思うので、そのあたりのところの工夫をしていただけたらうれしいなと思います。

○**伊藤教育長** 梅崎校長が出てきてうれしかったです。市長さんとやり取りしながら、英語を子どもたちに近づけたいなと2人で話して何年か取り組んで、こういう形で子どもたちがちゃんと見せてくれてありがたいなと思っています。

みんな6年生ですか。2学期は修学旅行があったりいろいろな楽しみがあって、コロナの中でもみんな卒業まで頑張っていたなと思いました。今日は大変よくできました。

○内野市長 My name is Masaru Uchino. I am the Mayor of Ebina City. このぐらいはできるのです。だけど、見ていて、私の英語は、英語の字幕が出てくると分かります。しゃべっていると、ないと分からないというのが日本の英語力ですよ。基本的にはその部分をいろいろやってここまで来たのはすばらしいなと思っています。1つだけ、先ほど聞いた人がいますが、私も大学へ行って、ここまで来て思うことは、やっぱり学生時代、海外に行きたかったな。行ってみればよかったなとつくづく思います。日本が一番いけないことは、日本語があつて、第2外国語ということで、絶対に英語か選ばされるのですね。海外はみんな英語が共通語になっています。それプラス、今、日本は中国人も来ているし、ベトナム人も来ているし、いろんな国の人 coming。本当に多様化している。そういった部分では基本的にはその人たちは英語は分かっているのですよ。だから、英語でやればオーケーだけど、母国語でやるということも必要なので、これから本当に外国語というのは英語だけじゃなくて、1つはいろいろ多様化してくるだろうと思っています。

今、講師の先生がいますが、これから海老名市内で海外にずっと勤務していた高齢者の方がいて、何かやりたいと言うのですよ。何をやりたいのと言うと、英語とか、あるいは行ったところの東南アジアの言葉もしゃべれるから、やりたいと言って、こういう人たちの人材を今の外国語教育の中に結びつけていって、子どもたちが放課後、あそびっ子クラブとかいろいろありますが、そういった中で学校のクラスで、例えば韓国語、中国語を学びたいという人がいれば、そういったもので親しく挨拶ぐらいできるような形でやっていくことも、これから必要なのではないか。海老名は本当に多様化していて、いろいろなところに行っている人がいるのですね。そういう人たちが地域のゆめクラブに入るかということ、入らないのですよ。やはりそれぞれ自分の生活をしていて、ですが時間がある。そうすると、もう少し自分が経験してきた国の話とか、そういうのを英語ではないけれども、その言葉を教えてあげたいというのがあるということで、今後、そういった形で国際交流の中で進めようと考えています。問題は学校の受皿です。クラスをちゃんと確保してくれば、そういう人を派遣することができるので、授業に入れると、学習指導要領に入れると学校はやるけれども、放課後何かやろうとすると、学校の先生は意外と入れたくないというのがあるから、そういうのを放課後に利用すると、もっと向上的になる。

あるいは今、講師の先生がいますが、英語ができるある程度の検定を持っている人が放課後、お互いに英語だけしかしゃべれない。一番いいのは、英語だけしかしゃべれないで1日やると英語は上達するのですって。昔の外国語大学では英語を取ると、ずっと日本語はしゃべらない。英語しかしゃべらない。そうすると、頭の中は英語で考える。日本語で考えて英

語でやるのではなくて、英語で考えられる、そこまでなるのですって。そういった部分でいくと日本は本当に遅れているので、その部分は進めていきたいのですが、お金の問題もありますから、その辺を十分精査しながらやっていきたいなと思っています。私はよく言うのですが、中学の先生、いらっしゃいますか？

○**教育長** 中学はいません。

○**内野市長** こんなことを言ったら悪いけど、中学で旅行に行くところはいつも決まっているじゃないですか。京都、奈良。それまでは体験学習で農作業やなんかやらせたけど、今は京都、奈良。同じお金で、何で台湾とかに行かないのですか。あるいはそういったところでいくと、高校になると海外に行っていますよね。県立高校だけは日本全国。ですが、私立の高校は、海外ばかりです。コロナだから今行っていないですが、そういった時代の中で考えていくと、やはりいろんなやり方であってお金もかかるのですが、私はそういった部分には金をかけてもいいなと思っています。だから、いろんな関係で台湾の子どもたちとの交流とか、どこかの交流、そういったものもこれから必要になります。しかしそれをやると今度は、何であのお子さんが行って、うちは行けないのとか、いろいろまた差別になるとか言うのですが、そういった部分でやる必要があると思うので、いろいろな考え方で、今後、国際的な感覚を持ちながら、皆さんも育ててほしいし、そういった環境を私たちがつくらないといけないとつくづく思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○**専任参事** ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして令和4年度第1回海老名市総合教育会議を閉会といたします。長時間にわたり誠にありがとうございました。